

# 「家がいいね」 第181号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2019.6.4

普段の生活に焦点を当てるべきでしょう

6月になり高柳の夜店が「一六三八」と始まりましたね。でも普段は、こんなに寂しい人通り。この道が賑わったのは、そんなに遠い昔でもないと思います。多かった歩行者や自転車は、どこに行ったのでしょうか。イベント時の屋台の前に子に懇願された親と一緒に居るのは、昔と同じですが。

日本全体が寂しくなるのが、2025年問題ですが来年はオリンピック、次の年は三重国体、その後も大阪万博と、空騒ぎが続くのは何としたことでしょうか。成すべきことを成さない意を「不作為」と呼びます。その放置された生活は元に戻すだけでも大変ですのに。



自然の中で最期まで生きる

**秩父の山奥の限界集落の話。**ここでは今は誰も住民がいらないが、春は、あちこちの山に花が咲く。かつてここで暮らしていた人たちが植えた花々だ。ムツさんは、体が衰え世話できなくなった斜面の畑に、先立つた夫と共に一万本もの花を植えてきた。「畑が荒れ果てていくのは申し訳ない。せめて花を咲かせて、山に還したい」と。ムツばあさんが85歳で亡くなって10年。花の風景とともに在りし日の生活が映し出されたTV番組。題は、「秩父山中 花のあとさき・最終章」NHK・BS

私の感想。飾らない魂は表情に表れます。自分が受け継いだものを還すという慎ましいものです。不便を嘆かず身体を使い「こうすれば安気やから」と、他人も頼りにしながら生きていく姿勢を見ました。実は再放送は5日昼です。DVDなら申し出下さい。



診察で交わす言葉 1 「しあわせ」

思い出して、拾い上げる言葉の断片です。「幸せって、失って分るんだけど、ほんの些細なことなんですわ」「ツライって思ったことが実は幸せの一部でした。辛いという字も似ていますわ」「幸せに見られたい気持ちがある」「先回りして無理をするんです」「インスタバ映えってそれ？」「みずから幸せを表わす言葉が、枯れるように少なくなり、何でも「かわいい！」で替えるのは、孤立を恐れ、どう見られるのか悩むせいでしょうか。



身近に在宅を知る市民塾のお知らせ

「いつ誰に在宅を相談すべきか」市民の疑問です。**第2回 6月16日(日) 14時** パルティいせ  
「終わりよければ」いせの会主催

在宅の映画のご紹介 進富座にて上映予定

7月6日(土) 19日(金)の期間  
父の病気で跡継ぎを託された若先生の在宅への奮闘記。一度ご覧下さい。  
若い医者こそ、訪問診療をしてほしいものです。私もまもなく70歳、助け合う野口医師も干支で一回り下。



「ピア まちをつなぐもの」前売り券、当院にもあります。

この先の臨時休診のお願い

6月22日(土)の外來、よろしく、ご了承下さい。



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
メール [homecare@kr.tep-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tep-ip.or.jp)  
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可